

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	なおゆき まなべ ががく あんさんぶる		団体ウェブサイトURL
制作団体名	Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble		http://sho-manabe.net/detail/nmge/
代表者職・氏名	代表・真鍋尚之		
制作団体所在地	〒 235-0023	最寄り駅(バス停)	屏風浦駅
	横浜市磯子区森4-14-27-105		
電話番号	045-758-7532		
ふりがな	なおゆき まなべ ががく あんさんぶる		団体ウェブサイトURL
公演団体名	Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble		http://sho-manabe.net/detail/nmge/
代表者職・氏名	代表・真鍋尚之		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	2020年9月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表;真鍋尚之 理事長;本多恵昭 理事;太田豊、三浦元則 監事;古積 亜矢子 会計監査人;岩崎達也	会員・準会員・講師:19名 雅楽を長年研鑽し、十分な演奏技能を習得し、かつ高い芸術性を持ち合わせている事。 加入には役員からの推薦・承認を必要とする。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	真鍋颯希
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	永井大志

本申請にかかる連絡先
(メールアドレス)

satsuki0524pooh@icloud.com

<p>制作団体沿革</p>	<p>真鍋尚之の呼びかけにより優秀な若手の演奏家を集め、2015年より横浜市内の小学校でのワークショップや演奏を中心に活動を展開。従来の団体や流派の垣根を越え、東京藝術大学・國學院大学・天理大学などで雅楽を学んだ一戦で活躍する奏者を中心に、雅楽を日本のみならず世界に伝え、理解を図る事を目的に2020年9月結成。雅楽の伝統と魅力を最大限に提示しながら、新しい演奏方法や鑑賞方法を模索し提示してきた。さらに新しい作品の創作・初演もめざす。</p> <p>2015年より横浜市内の小学校や杉田劇場にてワークショップや公演、鑑賞会を行ってきた。 2020年10月には久良岐能舞台や大塚遺跡での公演を開催。 また学校などでの教材としても使える『越殿楽の理解のために』を制作。 2021年1月泉区テアトルフォンテにて演奏会を開催。 2021年10-12月横浜・広島・山口にて演奏会を開催(文化庁AFF採択事業) 2022年10-12月豊橋・横浜・東京にて演奏会開催(文化庁AFF 2採択事業)</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>2015年1月横浜市教育プラットフォーム事業(洋光台第二小学校) 2016年7月横浜市教育プラットフォーム事業(磯子小学校) 2017年2月杉田劇場アート体験塾(洋光台第二小学校) 2017年7-12月横浜市教育プラットフォーム事業(洋光台第三小学校) 2017年10月杉田劇場教育キャラバン(洋光台第一小、浜小、伊勢山小、洋光台第二小学校) 2018/19年文化庁子供育成事業(さわの里小学校、洋光台第二小学校) 2019年12月杉田劇場アート体験塾(杉田小学校、汐見台小学校) 2020年12月杉田劇場アート体験塾(根岸小学校、さわの里小学校) 2021年1月横浜市教育プラットフォーム事業(中和田小学校、下和泉小学校、伊勢山小学校) 2021年12月文化庁子供育成事業(洋光台第二小学校、桜岡小学校) 2022年12月文化庁子供育成事業(洋光台第二小学校、岡村小学校、桜岡小学校) 累計 約30公演</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>納曾利(他曲目は別添資料にURL) https://youtu.be/2MfcliMUdLg</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	雅楽 管絃と舞楽の世界		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【プログラム構成】</p> <p>1.《平調音取》</p> <p>2.《越殿楽》</p> <p>3.笙・箏・横笛による《調子》</p> <p>4.《越殿楽残楽》</p> <p>5.児童・生徒による打物の練習と演奏家との合奏体験</p> <p>6.《陪臚》</p> <p>7.舞楽《納曾利》</p>		
	公演時間 90 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>・《越殿楽》は雅楽の代表曲で、一般にもよく知られており、教科書にも取り上げられている。楽器紹介を兼ねて演奏する。</p> <p>・《陪臚》は只拍子の曲で、越殿楽とは異なりリズムカルな曲である。</p> <p>・《納曾利》は高麗楽の曲で、唐楽である越殿楽や陪臚とはまた違った趣がある。</p>		
演目選択理由	<p>・雅楽の代表曲《越殿楽》《陪臚》、舞楽《納曾利》を取り上げる事により雅楽の全体像を知る事ができる。・陪臚は只拍子(2+4拍の混合拍子)の曲。唐楽の拍子;早(越殿楽)と只拍子を比較して鑑賞する事により雅楽の多彩なリズムを感じ取る事ができる。・《納曾利》は破と急からなり、リズム感が良い。高麗楽の拍子はテンテン、テンテン、囃(ずん)百(どう)など歌いやすく親しみやすい唱歌が付けられており簡単に覚えらる。高麗楽の拍子を理解するために最適の曲である。</p> <p>上記のようにリズム構造を理解し雅楽のさまざまな拍子を理解する事により、捉え所のなかった音楽を認識しやすく、曲による違いや、間合いなど感じやすくなる演目を構成した。</p>		
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>越殿楽の拍子である早四拍子のリズムパターン(鞆鼓・太鼓・鉦鼓)を覚え、膝の上などを使って練習する。</p> <p>ワークショップで体験した打物の奏法を選出された9名(鞆鼓・太鼓・鉦鼓それぞれ3名ずつ)が舞台上で演奏する。</p> <p>3組を選び本物の楽器を使って練習。笙・箏・笛と生徒(鞆鼓・太鼓・鉦鼓)で越殿楽を合奏する。</p> <p>(重なっているのどちらかひとつ)</p>		
出演者	<p>真鍋尚之(笙・舞);東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒。平成23年度文化庁文化交流使。雅楽ヨーロッパ公演、カリフォルニア公演プロデュース。十二音会所属</p> <p>本多恵昭(箏・打物);雅鳳会主宰。真宗大谷派雅楽講師。</p> <p>永井大志(笙・箏);天理大学雅楽部卒。雅楽カリフォルニア公演参加。青木総喜(笙・打物);國學院大学青葉雅楽会出身。</p> <p>三浦元則(箏・打物);東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒。東京楽所所属。國本淑恵(箏・打物);東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒。雅楽中南米公演参加。春日るり子(箏・打物);東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒。</p> <p>太田豊(笛・琵琶);東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒。藤脇亮(笛・琵琶);國學院大学青葉雅楽会出身。雅楽道友会所属</p> <p>豊英秋(笙・箏);元宮内庁式部職楽部首席楽長。芸術院会員。十二音会主宰。</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 10 名 スタッフ: 1 名 合計: 11 名	運搬	積載量: 1 t 車長: 4.8 m 台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	11時	11時～12時	13時30分～15時		15時30分～ 16時30分	17時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	5日	5日	10日	10日	
	11月	12月	1月	計	60日	
	5日	10日	10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	27名(打物:鞆鼓・太鼓・鉦鼓×9で共演)
		鑑賞人数目安	400名程度



(図1) 生徒たちが演奏家を取り囲み、演奏を間近で見学している状態。生の演奏を近くで鑑賞することができる。

公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。



(図2) 生徒が本物の楽器を体験している状態。楽器を体験するだけでなく、雅楽の演奏家と共演できる。

舞台設置に必要な面積:横5m程度 奥行7m程度

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	120名程度(クラス毎少人数での開催が望ましい)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>①雅楽の歴史・楽器についての簡単な説明<5分> ②越殿楽の唱歌を覚える<10分> ③唱歌に合わせて楽器の解説を行う<5分> ④越殿楽の拍子(早四拍子)を覚え膝の上などを使って練習する<15分> 1. 鞆鼓の奏法を膝の上で練習 2. 太鼓の奏法を膝の上で練習 3. 鉦鼓の奏法を膝の上で練習 ⑤学校にある大太鼓や小太鼓など代替楽器を用い練習を行う<10分></p> <p>雅楽の歴史・楽器について知り、拍子や音楽の構造を知る事により公演での理解がより進む</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(図1)④-1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(図2)④-2</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>(図3)⑤</p> </div>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>神社などで聞こえてくる漠然とした「音」から、唱歌を覚え拍子を理解する事により、雅楽という「音楽」として聞く事ができるようになる。</p> <p>越殿楽をはじめとする雅楽の曲はテンポが非常にゆったりしているために捉え所がないように感じる人が多い。打物の演奏は非常に難しいが、膝の上を叩いたり(鞆鼓の双方の練習-図1)、図(ずん)百(どう)と声を出しながら打つ真似をする事により(図2)簡単に体験し理解することができる。また、これらを行う事により雅楽の持つ独特な間合を体感することも可能となってくる。これらは実際の雅楽の演奏家も行っている作業であり、本物をそのまま伝える事こそ理解を深めることに繋がると考えている。次の段階として学校にある代替楽器にて奏法を練習し、さらに本物の楽器を代表者数名が練習し演奏家と合奏することで雅楽の世界を体験する。</p> <p>こちらが知識を教え込むわけではなく、基本的な知識と体験を通して、生徒(児童)自らが伝統音楽の持つ独特の世界を理解できるよう工夫したワークショップを開催する。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>歌を覚えてから楽器を練習するという伝承方法は雅楽において千年以上に渡り実践されてきた。雅楽の真髓を理解していく最初の段階は歌と楽器を用いない練習である。</p> <p>しかし短期間での子供達の楽しみや興味を持つ方法として学校にある楽器で雅楽らしい音を出したり、本物の楽器に触れる喜びを得る事により興味を引き出し、伝統文化に対する将来の理解へと繋げていきたい。</p> <p>越殿楽の理解のために(ワークショップ映像) https://youtu.be/LzVWo0Hc_w</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble 】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>Naoyuki MANABE GAGAKU Ensembleのメンバーは2015年より横浜市内を中心に、多くの小 学校でワークショップや演奏を行い、雅楽の魅力を伝えてきた。そのメンバーは東京芸大を中 心に本格的に雅楽を学び、習熟した演奏家たちである。 児童生徒が対象であっても雅楽の持つ高い芸術性を本来の姿を変える事なく伝えることを目 標とする。 その事により決して一時の楽しみで終わるのではなく、日本の伝統文化の奥深さや多様な姿 を感じてもらい、我が国の伝統芸術への理解を深めてもらう事に貢献する事ができるであろう。 雅楽の演目の中ではオーソドックスな曲目であるが、若手が多いながら将来性のある非常に高 いアンサンブル演奏を聞かせる事により、生演奏の音楽の持つ魅力を直接感じ、将来演奏会 へと足を運ぶ人材育成への一躍を担いたいと思っている。</p> <p>ワークショップにおいても子供用に噛み砕いた方法ではなく、従来の口伝の方法を用いて行 う。本物のみが伝える力を持っているという信念のもとこのような方法をとっている。これはこれ までの小学校での指導において、この方法が一番効果を上げていると実感したため続けている いる。このような経験から子供の感性は豊かで、「敷居が高い」「難しい」という先入観を持つ人の 多い雅楽(日本の伝統芸能)でも十分理解し楽しめるという確証を持っている。わざわざ大人が 子供用にわかりやすくしてしまうことでその豊かな感性や素直に受け止める力が損なわれてし まう危険性もあるだろう。本事業を行うことで、より多くの児童・生徒が雅楽を神社やテレビのコ マーシャルで流れてくる単なる音として捉えるのではなく、深く理解することで楽しむことができ るようになるための最初の契機になるような活動にしていこうと考えている。当然児童向けに 分かりやすい表現を使い説明する努力は常に続けながら、本来あるべき姿をそのまま伝え理解 解を深めることを目指す。これは高い専門性を身につけた実演家にのみ可能であることと考 え、「芸術家」が学校で直接「芸術」を伝える最も重要な意義と考えている。</p>
	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>雅楽に限らず日本の伝統音楽に対してはどうしても敷居が高い、あるいは難しいなどの先入 観を持つ人が多い。これをいかに取り払う事ができるかが事業の成否に係ると考える。我々の 行ってきた活動の中で、小学校低学年の児童や日本の文化を全く知らない海外の学生などが ほんの1時間程度のワークショップで雅楽の拍子を理解する事により、退屈する事なく、むしろ ノリノリで演奏を聞いていたという光景を幾度となく見てきた。これらの成果は子供達はもちろ ん教員にも非常に高く評価され毎年繰り返しワークショップの実施の要請を受け、着実に浸透し て行っている。</p> <p>また、先にも記したが真鍋尚之が『越殿楽の理解のために』という映像資料を2020年に作成し た。これには雅楽の歴史や楽器の解説に始まり、越殿楽の拍子を理解するための打物の練習 する映像を収めている。1時間弱の内容で越殿楽を理解することができ、この映像を見る前と 後では聞こえ方が全く違ってくる。これらの内容でワークショップおよび公演を行う。またこの資 料を用い、まず先生方の理解を進めていく事も一つの方法と考える。</p>

リンク先	No.1	【公演団体名 Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble 】
項目内容	越殿楽 https://youtu.be/sEGRa7eMWJw 陪臚 https://youtu.be/oU9GL4jvPTs 納曾利 https://youtu.be/2MfliMUdLg 越殿楽の理解のために(ワークショップ映像) https://youtu.be/Lz_VWo0Hc_w	